

# KOBELCO

KOBELCOグループ

## 株主の皆様へ

2021年4月1日～2021年9月30日

第169期  
上半期

証券コード: 5406

<お知らせ>

次回の株主様見学会につきましては、  
開催を見送ることいたしました。  
詳細は裏表紙をご参照ください。

株式会社 神戸製鋼所



「安定収益基盤の確立」と  
「カーボンニュートラルへの挑戦」を  
最重要課題とする  
新たな中期経営計画をスタートしました。  
当社グループが成長軌道に乗るために、  
まずは足元の収益基盤の安定化を  
確実にやり遂げてまいります。

株式会社神戸製鋼所  
代表取締役社長 山口 貢

株主の皆様には日頃から格別のご高配を賜わりまして厚く御礼申し上げます。

はじめに、当社グループはコロナ禍においても、人々の生活や社会インフラなどの維持に必要な技術・製品・サービスの提供を継続することが社会的責任であると考えており、感染拡大により事業活動が停止することがないよう全社一丸となって感染防止に取り組んでまいりました。その結果、今日に至るまで大きな支障を来すことなく事業活動を継続しております。この場をお借りして、当社グループの事業活動を支えてくださっている株主の皆様へ改めて感謝申し上げます。

### 当期の業績及び配当について

当社グループの当上半期の連結業績につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大影響を受けた前年同期に比べ、自動車向けを中心に需要が回復し、販売数量が増加したことなどから、売上高は前年同期に比べ1,957億円増収の9,721億円、営業損益は前年同期に比べ739億円改善の468億円の利益、経常損益は前年同期に比べ795億円改善の443億円の利益となりました。また、親会社株主に帰属する当期純損益は、前年同期に比べ497億円改善の345億円の利益となりました。

2021年度の連結業績見通しにつきましては、下半期において、原料価格上昇分の販売価格への転嫁が進捗する一方、副原料や諸資材の調達コストの増加、在庫評価影響の段差などを想定し、上半期に比べ減益を見通しているため、売上高は2兆900億円程度、営業損益は850億円程度の利益、経常損益は750億円程度の利益、親会社株主に帰属する当期純損益は500億円程度の利益と見通しております。

当期の中間配当につきましては、今後の財政状況、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に勘案し

た結果、1株につき10円とさせていただきます。株主の皆様には、何卒ご理解を賜りたいと存じます。

### 安定収益基盤の確立に向けて

2016～2020年度グループ中期経営計画で残った課題を踏まえ、新たなKOBELCOグループ中期経営計画(2021～2023年度)では、安定収益基盤の確立を最も重視し、すべての発電所がフル稼働し収益に貢献する2023年度に、全社でROIC(投下資本収益率)5%以上を目指すことを掲げました。この目標を達成するために、5ページでご説明いたします通り、5つの重点課題を設定いたしました。

これら5つの重点課題を克服することにより、2023年度に全社でROIC5%以上の達成を目指しております。今後は各事業運営についてもROICを指標として管理していきます。また、想定以上に外部環境が悪化した場合や、固定費削減などの施策が計画通りにならなかった場合に備えて、常に複数の戦略を準備しております。更にこの計画を実行するにあたっては、マイルストーンを定め、必要に応じて戦略を見直してまいります。

2021～2023年度の投資に関しましては、戦略投資は既に一巡し、収益の刈り取りに比重を置いているため、この期間に大型の新規投資は考えておりません。しかし、カーボンニュートラルに向けた潮流が早まるなどの環境変化に備えて、必要なケーススタディは行ってまいります。この3年間は守りに軸足を置きますが、転換期が来た場合には迅速な経営判断を行ってまいります。

### カーボンニュートラルへの挑戦について

新たな中期経営計画ではカーボンニュートラルに向けたロードマップを公表いたしました。当社グループは鋼材事業や電力事業などのCO<sub>2</sub>を多く排出する

事業を有しております。社会的な技術革新の活用を含め、これらの事業におけるCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組む、生産プロセスにおけるカーボンニュートラルを目指してまいります。

また、当社グループは、世の中で排出されるCO<sub>2</sub>の削減に貢献する様々な技術・製品・サービスも有しております。カーボンニュートラルへの流れはビジネスチャンスであり、当社グループが有する多様な技術・製品・サービスを融合し、カーボンニュートラル社会の実現へ貢献してまいります。

素材系事業では、高炉からのCO<sub>2</sub>排出量削減にあたり、既存技術の追求だけでなく、エンジニアリング部門が有するMIDREX<sup>®</sup>の技術を活用した当社グループ独自の技術でCO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでまいります。

カーボンニュートラルの実現に向けては、更に電炉による高級鋼の製造や水素還元製鉄、またこれらに外部の革新的技術を掛け合わせて活用するなど複数の選択肢があります。技術的ハードルの高さ、多額の投資・開発費用、製造コストの上昇とその負担など、克服すべき課題も多くありますが、果敢に挑戦してまいります。

電力事業では、アンモニア混焼・専焼によるCO<sub>2</sub>排出量削減に挑戦し、子会社の(株)神鋼環境ソリューションが有するバイオマス技術なども利用し、地域と一体となってエネルギー利用の効率化に取り組んでまいります。

カーボンニュートラル社会実現への貢献という点では、素材系事業では自動車軽量化や電動化に寄与する製品の提供に取り組んでまいります。機械系事業では当社グループはコンプレッサーや熱交換器、気化器といった製品メニューを有しております。これらの製品はこれまで化石燃料の圧縮用途を中心に使用されていましたが、最近では水素やアンモニアの貯蔵・



運搬といったカーボンニュートラルの実現に欠かせない用途にも対応しております。また、MIDREX<sup>®</sup>プロセスは、天然ガスを使った直接還元製鉄法であり、世界の直接還元鉄生産量(天然ガスベース)の約80%を占めており、世界で90基以上の納入実績があります。電炉向けの需要拡大に対応するとともに、高炉向けのCO<sub>2</sub>削減ソリューションの提供、水素還元製鉄法への挑戦など、MIDREX<sup>®</sup>プロセスを通じたCO<sub>2</sub>削減ソリューションを提供することで社会のCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献してまいります。

### サステナビリティ経営の推進

当社グループはこれまで100年を超える歴史の中で常に社会に貢献することを目指してきましたが、その姿勢は今後も変わりません。ただし社会ニーズは変わっていきます。事業を継続するための収益を確保しながら、変化する社会ニーズを捕捉し、当社グループが保有する多様な技術を掛け合わせて新たな価値を創造していくことでサステナブルな経営に取り組んでいく必要があります。

当社グループにはこれまで蓄積してきた多くの技術や知見があり、これを活かさない手はありません。これまで当社グループは、各事業が有する様々な技術や知見を事業間で相互に活かすことができず、グループの企業価値は各事業の足し算となっておりましたが、今は掛け合わせるという意識が出てきております。今後は様々な技術や知見を掛け合わせることで社会課題を解決し、企業価値を向上させてまいります。

また、それを支えるガバナンスや人材の有効活用など経営基盤の強化を進めていく必要があります。品質事案の反省を心に刻み、会社に魂を入れてまいります。

現在世の中は急速にかつ大きく変化しております。特にパンデミックや異常気象の多発により、安全で安心できるサステナブルな社会を望む声が高まっており、「個性と技術を活かし合い、社会課題の解決に挑みつつける。」という当社グループの使命はますます重要になっております。

株主の皆様におかれましては、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますとともに、当社グループをご支援いただきたく、何卒宜しく願い申し上げます。

# 当期の概況

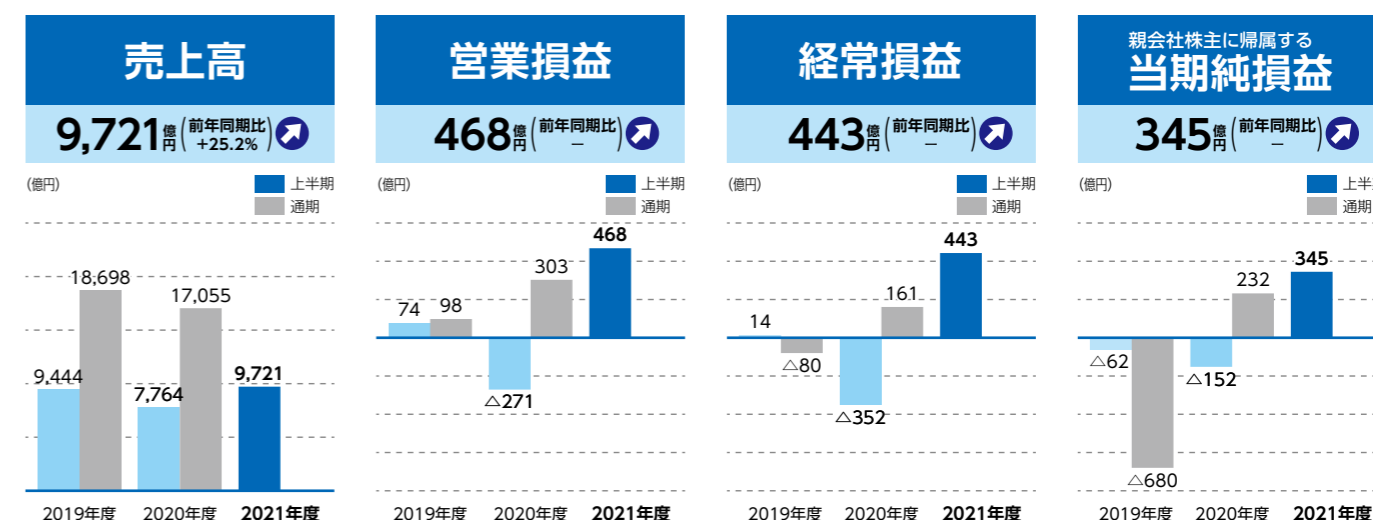
鋼材の販売数量は、自動車向けを中心とした需要の回復により、前年同期を上回りました。アルミ板の販売数量は、飲料用缶材向けの拡販に加え、自動車向け需要が回復したことなどから、前年同期を上回りました。

素形材では、自動車向け需要の回復に伴い、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉などの販売数量は前年同期を上回りました。

油圧ショベルの販売台数は、東南アジア、欧州を中心にインフラ投資の拡大を受けて需要が回復したことから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年同期を上回りました。

この結果、当上半期の売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年同期に比べ1,957億円増収の9,721億円となり、営業損益は前年同期比739億円改善の468億円の利益、経常損益は前年同期比795億円改善の443億円の利益、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期比497億円改善の345億円の利益となりました。

# 業績ハイライト(連結)

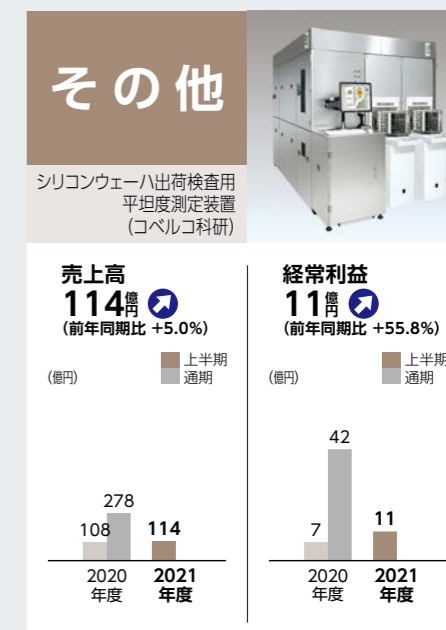
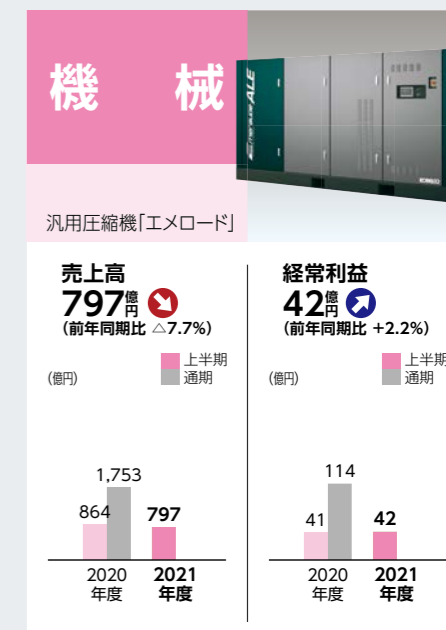
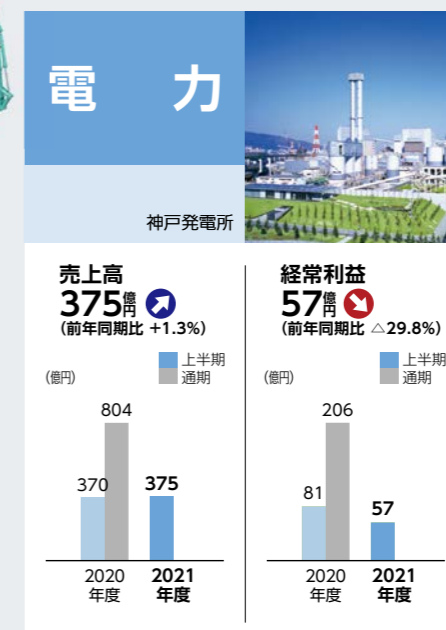
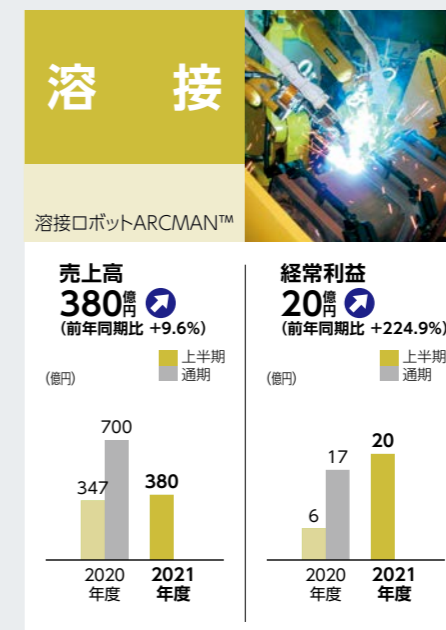
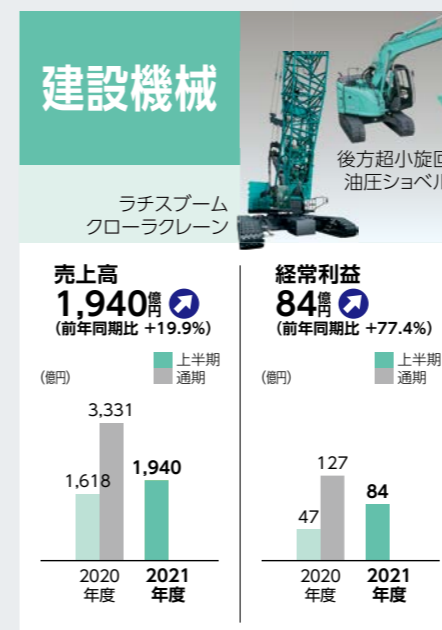
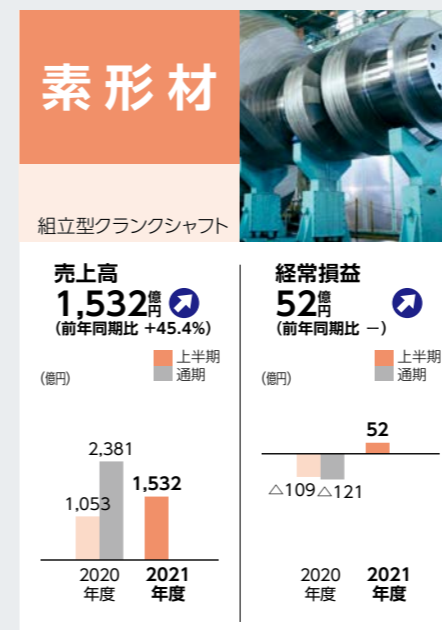
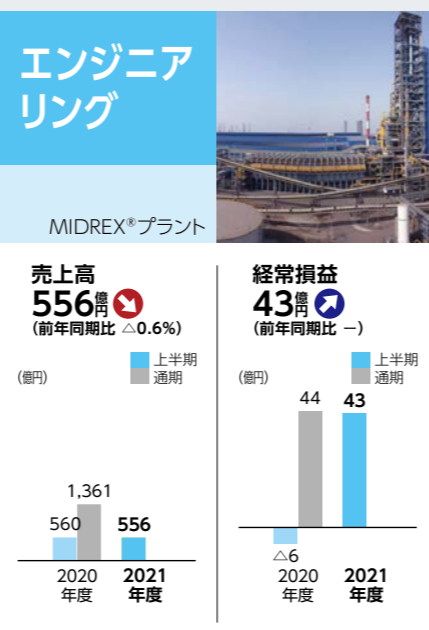
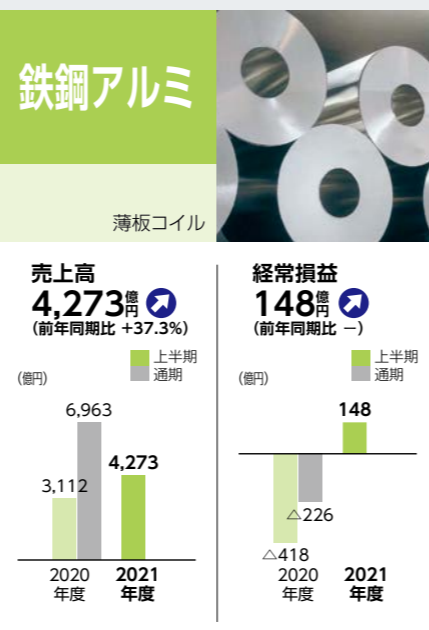


## 事業別売上高(2021年度上半期)



- 鉄鋼アルミ ..... 43%
- 素形材 ..... 15%
- 溶接 ..... 4%
- 機械 ..... 8%
- エンジニアリング ..... 6%
- 建設機械 ..... 19%
- 電力 ..... 4%
- その他 ..... 1%

(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額248億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額9,721億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。



# KOBELCOグループ 統合報告書2021を発行しました。

当社グループは、2018年度より毎年「統合報告書」を発行しています。  
この度、2021年度版を発行しましたので、その一部をご紹介します。

▶関連リンク

「KOBELCOグループ統合報告書2021」は、  
以下の当社ホームページにてご覧いただけます。  
(QRコードを読み取っていただくと、以下のURLにアクセスできます。)  
URL:[https://www.kobelco.co.jp/about\\_kobelco/outline/integrated-reports/index.html](https://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/outline/integrated-reports/index.html)



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



## KOBELCOグループ中期経営計画(2021~2023年度)

本年5月公表の新たな中期経営計画では、当社グループが実践すべき最重要課題を  
「安定収益基盤の確立」と「カーボンニュートラルへの挑戦」としました。

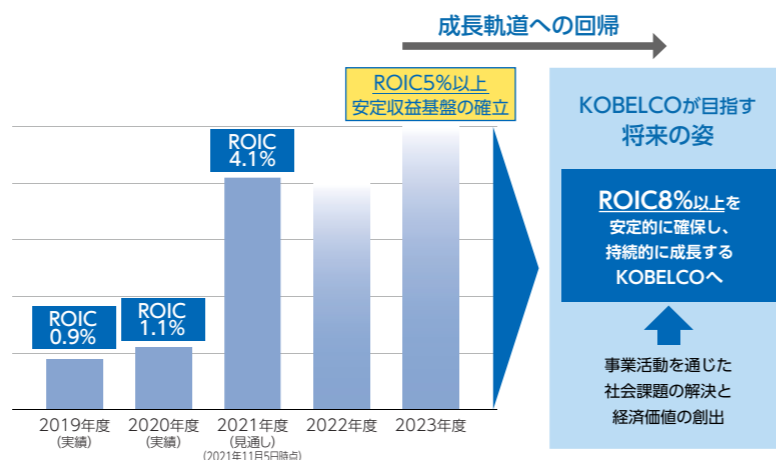
▶リンク | [統合報告書2021 P.34~40「KOBELCOグループ中期経営計画\(2021~2023年度\)」](#)

### 安定収益基盤の確立

外部環境に左右されることのない“稼ぐ力”を「取り戻す」KOBELCOグループは、  
安定収益基盤の確立に向け、不転退の覚悟で取り組み、成長軌道に乗り持続的な  
成長を遂げる企業への進化を目指します。

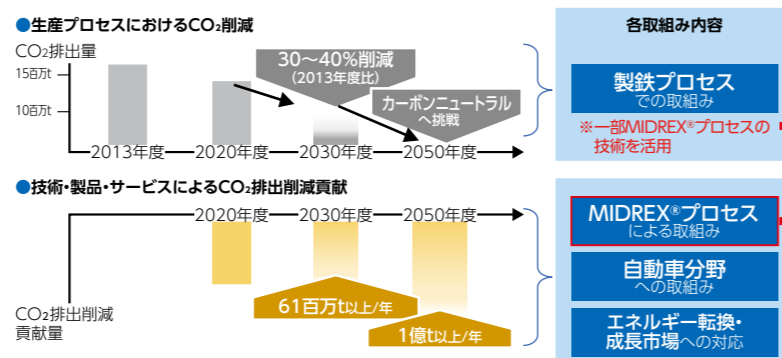
#### 「安定収益基盤の確立」に向けた重点施策

- 鋼材事業の収益基盤強化
- 新規電力プロジェクトの円滑な立上げと安定稼働
- 素材系事業 戦略投資の収益貢献
- 不採算事業の再構築
- 機械系事業 収益安定化と成長市場への対応



### カーボンニュートラルへの挑戦

カーボンニュートラルへの挑戦は、  
KOBELCOグループの課題であると同時に  
大きなビジネスチャンスです。グループ  
内の技術を融合させた生産プロセスでの  
CO<sub>2</sub>削減、当社グループ独自の技術・製  
品・サービスによるCO<sub>2</sub>排出削減貢献を  
通じて、カーボンニュートラルな社会の実  
現に貢献していきます。



電力事業での取組み | 電力事業では、バイオマス技術などを利用した地域全体でのエネルギー利用の効率向上等や、アンモニア等を利用した外部の革新技术の活用検討に果敢に取り組んでまいります。

## MIDREX®プロセスとは?

「カーボンニュートラルへの挑戦」の鍵を握る当社グループの独自技術です。

### MIDREX®プロセス:

製鉄法の一つであり、  
天然ガスを改質した還元ガス(水素を多量に含む)で、  
鉄鉱石を直接還元することで、鉄鋼原料である「直接還元鉄(DRI)」を  
製造するプロセス。



Qatar Steel No.2プラント(カタール)(150万t/年)



DRI (Direct Reduction Iron)

鉄鉱石を固体状態で鉄に還元し、鉄分80%以上にした鉄鋼原料



HBI (Hot Briquetted Iron)

海上輸送等を目的にDRIを固形化させたもの

特徴

CO<sub>2</sub>削減 20~40%削減  
(「還元鉄・電炉」と「高炉・転炉」の比較)

豊富な実績 世界の還元鉄生産量の  
80%※、90基超の納入実績  
(※天然ガスベースの直接還元鉄)

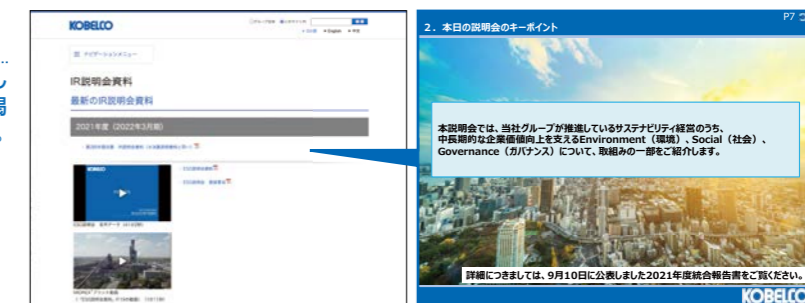
以上のような特徴を持つMIDREX®プロセスは、  
現在、世界中の鉄鋼メーカーが脱炭素化を検討している中で、  
お客様からの引合いが急激に増加しています。  
統合報告書2021では、その運営を行う  
Midrex Technologies, Inc. (神戸製鋼所100%子会社)の  
Stephen Montague, President & CEOに、  
その現状と今後の展望などについて語ってもらっています。



Midrex Technologies, Inc. Stephen Montague, President & CEO

▶リンク | [統合報告書2021 P.30~33「ミッションストーリー」](#)

▶関連リンク ESG説明会を開催しました。  
統合報告書の内容を踏まえ、ESG説明会を開催しました。説明会当日の音声データや質疑要旨も掲載していますので、こちらもぜひご参照ください。  
URL:[https://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor\\_meeting/](https://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor_meeting/)



経営  
その他

## ワクチン接種会場への当社関連施設の提供

当社は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、新型コロナウイルスワクチンの接種会場として、神戸市中央区にある国際健康開発センターの会議室、兵庫県加古川市にある加古川製鉄所の加古川体育館を提供しています。当社は、今回の会場提供や様々な活動を通じ、新型コロナウイルス感染症のまん延の早期終結を支援し、人々の安全・安心な暮らしに貢献してまいります。

新型コロナウイルス  
ワクチン接種会場

国際健康開発センタービル



加古川製鉄所加古川体育館

経営  
その他

## コベルコ神戸スティーラーズ「ラグビーアカデミー」

「日本ラグビーの次世代を担う子供たちにラグビーの“基本”を伝え、全国、世界へ羽ばたいていける選手を育成したい」との思いから、兵庫県内のスクールや部活動でラグビーをしている小中学校生を対象に「ラグビーアカデミー」を創設し、10月6日に灘浜グラウンドで初練習を行いました。今後もこの活動により、スポーツの振興や青少年の健全育成、地域の活性化に努めてまいります。



新リーグ「ジャパンラグビーリーグワン」への参戦にあたり、ホストエリアを神戸市と明確に掲げ、チーム名を“神戸製鋼コベルコスティーラーズ”から“コベルコ神戸スティーラーズ”へと変更し、より地域に根差したチームへと生まれ変わりました。新リーグは2022年1月に開幕いたします。コベルコ神戸スティーラーズへのご声援をよろしくお願いいたします！

## インフォメーション

## Information

## 株主様見学会の開催見送りについて

当社は、株主の皆様にご理解を一層深めていただくために、定期的に株主様見学会を開催しておりますが、**新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2月下旬から3月中旬頃に開催しておりました株主様見学会につきましても、引き続き、開催を見送ることといたしました。**開催を楽しみにしていただいていた皆様には誠に申し訳なくお詫び申し上げます。事情をお察しいただき、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、今後の株主様見学会につきましては、その時の状況を勘案し、開催の検討を行ってまいります。今後とも、当社へのより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 会社の概要 (2021年9月30日現在)

創立 1905年9月	株主数 180,896名
発行済株式総数 3億6,436万4,210株	従業員数 11,621名
資本金 2,509億3,003万3,900円	

## 株式のお手続きに関するお問い合わせ先

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
当社株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求及び相続などのご相談、お手続きは、以下にお問い合わせください。

〈お問い合わせ先〉〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777 (通話料無料(平日9:00~17:00))

※証券会社にお預けの当社株式については、お預けの証券会社にお問い合わせください。

※未受領配当金のお受取りのお手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。